

ガラテヤ3章26-28節 「平等にする福音」

1A キリストにある神の子ども 26-27

1B すべての者 26

2B バプテスマ 27

3B 着ているもの 27

2A 一つにするキリスト 28

1B アブラハムへの祝福

2B キリストの血による御民

3B ユダヤ人の祈りの逆転

1C 選びの民

2C 真実な自由

3C 神のかたち

本文

ガラテヤ人への手紙 3 章を開いてください。私たちの聖書通読の学びは 3 章の前半まで来ています。来週に、後半部分の 15 節から 29 節までを一節ずつ見たいと思います。今朝は、その一部である、26 節から 28 節を見ていきます。「²⁶ **あなたがたはみな、信仰により、キリスト・イエスにあって神の子どもです。**²⁷ **キリストにつくバプテスマを受けたあなたがたはみな、キリストを着たのです。**²⁸ **ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由人もなく、男と女もありません。あなたがたはみな、キリスト・イエスにあって一つだからです。」**

パウロは、ガラテヤ書で、異邦人が、ユダヤ教徒になるべく割礼を受けて、律法を守りなさいという教えに対して、ガラテヤ人を何とかして救済したいという思いから、この手紙を書いています。それでユダヤ主義と呼ばれますが、彼らは、異邦人では救われない、ユダヤ人にならないと救われないと教えていました。パウロは、そうではない、すべての人が、ユダヤ人であっても異邦人であっても罪人であり、神の下で裁かれるけれども、神はキリストの贖いによって、ユダヤ人も異邦人も、救われるのだと教えました。キリストへの信仰によって救われると教えています。

1A キリストにある神の子ども 26-27

そして今、その信仰によって、すべての人が神の子どもになるのだと教えているのです。今、読んだ箇所で大変なのは、「**みな**」です。ユダヤ人だけが救われるとみなされていたけれども、そんなことではない、信仰によって、みな神の恵みにあずかるのだということです。26 節、27 節、28 節、すべてで言っていますね。「**あなたがたはみな、信仰により、キリスト・イエスにあって神の子どもです。**」「**キリストにつくバプテスマを受けたあなたがたはみな**」、そして、「**あなたがたはみな、キ**

リスト・イエスにあって一つだからです。」と言っています。

イエス・キリストの愛は広いです。ご自身を信じるすべての人に、その恵みが及びます。あまりにも広いので、その恵みに入れられた者たちが、主の愛が広いように、その心を広くする努力が必要となります。「まさかお前が、神の家族の中に入っているなんて、信じられない。」と思ってしまう、神の恵みがあるのです。なにしろ、王の息子のために王が催した披露宴には、大通りでかたっぱしから集めてきた人々でごったがえしているのです。マタイ 22 章に、王が息子の披露宴のために、招待した人々が来なかったことが書いてあります。これは、ユダヤ人たちのことですが、彼らが応答しませんでした。それで、王はしもべたちに命じています。「マタ 22:9-10 だから大通りに行って、出会った人をみな披露宴に招きなさい。』10 しもべたちは通りに出て行って、良い人でも悪い人でも出会った人をみな集めたので、披露宴は客でいっぱいになった。」本当に、いろんな人がごった返しているのが分かるでしょう。

イエス様が選ばれた十二人の弟子を見ると分かります。熱心党員のシモンがいて、取税人のマタイがいました。熱心党は武力でローマを打倒して、神の国をもたらすという考えの人々です。取税人は、ローマのためにユダヤ人から徴税するので、ローマの犬です。シモンがマタイを、一気に剣で殺すことは容易に想像できます。個性や背景がまるで違う人々が集まりました。なぜ、それの一つになれたのでしょうか？イエス様が真ん中におられたからです！そして、それぞれがイエスを主としていたからです！イエス様を主とする集団には、それぞれの帰属意識を越えた、神の国が広がります。そして、神の国に属していることを知っているのも、一つになれているのです。

しかし、私たちは、自分が快適でいられる空間を欲しています。そこで、自分が快適でいられるように、周囲に壁をいつの間にか心の中で造っています。それが壊される時に、私たちは心に葛藤を覚えます。それで、自分を、また自分たちを守るための、いろいろな理由を造ります。けれども、ただイエスの御名によって、というだけで、心を広げていく必要があるのです。

1B すべての者 26

まず 26 節の、「**あなたがたはみな、信仰により、キリスト・イエスにあって神の子どもです。**」と言っています。私たちは、「**子ども**」というのが、幼い子というよりも、文脈では、もう十分、父親と成熟した話をするのできる、成長した息子のことを指しています。

私たちは、前回の学びで、律法の下で生きている人々と、信仰によって生きる人々の違いを話しました。律法は、幼い子が、「これをしてはいけませんよ、あれを行いなさい」と、一つ一つ、教えられてそれを行うようなものです。戒めがあるのですが、その戒めが何で大切なのが分からないまま行っています。それで思春期になりますと、そうした教えに対して反発しますね。けれども成長すれば、親がなぜそんなことを教えていたのか、理解ができるようになります。そこで信頼関係

が生まれます。これまでは、これをしなさい、あれをしなさいということだけをただ行っていた関係であつたけれども、今は、イエス様を信頼することによって、この方の命令に従う関係になったのだよ、ということです。イエス様に愛されて、その愛によって生き、その命令に従う人生に変えられました。そういった関係にいる時に、神の息子として生きていくことができます。

そして、そうした関係に、それぞれがみな入っているのだというのが、パウロがここで言っていることです。キリストにあって、私たちは同じように神の子どもなのです。そこに上下はありません。ある人が霊的に優れていて、その人は神により近く、またある人は霊的に劣っているから、その人は神から遠くに離れている、ということはないのです。みな、キリストにあって神の子ども、つまり、同じように大切なのです。私たちは、無意識に、周りの人々と比べていませんか？だれかが、もっと神に近づいていて、だれかがもっと遠くにいるように。全くそんなことはないのです！

2B バプテスマ 27

そして、「**キリストにつくバプテスマを受けたあなたがたはみな**」とパウロは、言っています。キリストにつくバプテスマについては、ローマ 6 章でパウロが、キリストの死とよみがえりにつくバプテスマであることを話しました。「6:3-4 それとも、あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた私たちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたではありませんか。4 私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、ちょうどキリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、新しいいのちに歩むためです。」私たちは、罪に支配された古い人は、キリストが死なれた時に共に死にました。そして、キリストがよみがえられたそのいのちが、御霊によって私たちに与えられました。新しく造られました。キリストにあって死に、キリストにあって生きています。キリストに結ばれている者なのです。

3B 着ているもの 27

そして、「**キリストを着たのです**」と言っていますね。イエス様を、着物にたとえているのは興味深いです。当時、ローマ社会では、息子が一定の年齢に達したら、トーガ(toga)と呼ばれる上着が与えられます。それは、家族におけるすべての権利が与えられ、もう十分に成長した息子であることを示す着物です。私たちが、キリストのいのちにあつて生きる時に、キリストというトーガを与えられました。これで、神の子どもとして生きられるのです。これはちょうど、放蕩息子が父から与えられた上着に似ています。家に戻って来た息子に、父は祝宴を開きました。「ルカ 15:22-23 ところが父親は、しもべたちに言った。『急いで一番良い衣を持って来て、この子に着せなさい。手に指輪をはめ、足に履き物をはかせなさい。23 そして肥えた子牛を引いて来て屠りなさい。食べて祝おう。』これは、財産を使い果たした息子に対して、それでも父が恵みによって、再び息子の地位につけ、父の財産の相続を受け継ぐようにしてくれたことを示すものです。

このようにして、私たちは、キリストによって新しく造られた者です。キリストを着て、神の子どもになったのです。ここには豊かさがあり、そして平和があります。大金持ちの家で、息子たちや娘たちが平和に暮らしているようなイメージです。

2A 一つにするキリスト 28

だから 28 節があります、「ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由人もなく、男と女もありません。あなたがたはみな、キリスト・イエスにあって一つだからです。」あなたがたは、キリスト・イエスにあって、一つなのだ！ということです。

1B アブラハムへの祝福

これは、アブラハムへの約束に基づいていることを思い出してください。「ガラ 3:8 聖書は、神が異邦人を信仰によって義とお認めになることを前から知っていたので、アブラハムに対して、「すべての異邦人が、あなたによって祝福される」と、前もって福音を告げました。」この祝福がすべての異邦人に与えられているということです。すべて、ということが強調されています。

2B キリストの血による御民

黙示録を見れば、このことがさらに強調されています。「5:9-10 彼らは新しい歌を歌った。「あなたは、巻物を受け取り、封印を解くのにふさわしい方です。あなたは屠られて、すべての部族、言語、民族、国民の中から、あなたの血によって人々を神のために贖い、10 私たちの神のために、彼らを王国とし、祭司とされました。彼らは地を治めるのです。」」すべての部族、すべての言語、すべての民族、すべての国民であります。私たち、日本に住む者たちはどうしても、「内と外」で物事を考えてしまいます。日本人はほぼ一つの民族で、一つの言語で持っているので、他の国の人々もそうだと思い込んでしまいます。けれども、隣国の中国には、56 の民族があります。主要なのは漢民族ですが、その他に数多くいるのです。それぞれの民族が、それぞれの言語での教育も受けられるようになっています。けれども、彼らは中国人であるという国民意識があるのです。

私が十年以上、関わっている東アジア青年キリスト者大会は、日中韓の若いクリスチャンが集まる大会です。三つの国がキリストにあって、神の国として一つになるというビジョン、幻があります。けれども、ここ数年、ものすごいチャレンジを受けています。それは、中国と言っても、香港もあり、台湾もあるからです。けれども、香港の人にとって、自分たちが中国と呼ばれることを嫌います。今でこそ、力づくで中国人にさせられましたが、本心は違います。台湾の人たちは、なおさらのことです。では、香港も台湾もいっしょに掲げたら、今度は中国本土の人たちが違和感を抱きます、そこは中国の一部だからです。日本と韓国、日本と中国だけでも大きな違いがあるのに、中国という一国においても、大きな葛藤をたくさんの方が抱くのです。こういったことも、すべて想定済みで、神は、「すべての部族、言語、民族、国民」とおっしゃっているのです。だれも、「私は、これには当てはまらない」という言い訳ができないようにしているのです。主は、すべての人が神の子どもとな

るようにしていただきました。

私たちはすべて神の民です。一つの民です。その理由はただ一つ、「あなたの血によって人々を神のために贖い」とあります。キリストが自分のために血を流してくださった、ということだけで、私たちは一つになっています。

3B ユダヤ人の祈りの逆転

パウロは、ここで、ユダヤ人たちの祈りを意識して、書いたのだと思われます。「ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由人もなく、男と女もありません。」ですね、ユダヤ人の祈りの中に、こういうものがありました。「私がギリシア人でも、奴隷でも、女でもないことを感謝します。」こういった祈りがあったようなので、わざと、そういったものはないのだ、すべてがキリストにあって一つなのだ、と言ったのです。

人間は、さまざまな階級を自分たちの間で造ります。民族の違いによって、どちらが劣っていて、どちらが優れているか？ということがありますね。それから、経済的な格差によっても作ります。ローマ社会では、奴隷と自由人という、はっきりとした階級がありました。そして、性による違いがあります。男性と女性です。けれども福音は、キリストを信じる信仰によってということ、すべての人を神の前で、同じところに立たせるのです。福音において、すべて人は平等です。人々は、不平等について多くを語りますが、キリストの福音こそが人を平等にします。

人は、裸で生まれて、裸で地に帰るとよく言われますが、生まれる時も、死ぬ時は、人はみな同じです。その間の人生においては、いろいろな差別がありますが、この二つにおいては、全く差別はないのです。そして私たちは、今、言いましたように、もう一つ加える必要があります。イエス・キリストの福音です。この方において、私たちは全く差別がありません。どんなに身分の高い人も、身分の低い人も、キリストにあって一つです。どんな民族の人もキリストにあって一つです。男も女も一つです。十二弟子たちがあれだけ違ったのに、神の国にあって一つになっていたように、私たちもキリストの御国を受け継ぐ者たちとして、一つになっています。

1C 選びの民

初めの「ユダヤ人もギリシア人もなく」が、最も大事なところです。ユダヤ主義者らが、ユダヤ人でなければ救われないというユダヤ教の教えを持ち込んでいたことに、対抗しています。神が、キリストにあってユダヤ人だけでなく、憐れみの器として異邦人も選ばれたことを、パウロはローマ 9 章で話しています。ギリシア人はギリシア人のままで、キリストを信じる信仰で救われており、その信仰において、ユダヤ人とギリシア人は一つにされています。

ユダヤ人であれば救いに近く、そうでない人たちは救いが遠いという考えが、いかに間違ってい

るかイエス様は説かれました。「マタ 11:20-24 それからイエスは、ご自分が力あるわざを数多く行った町々を責め始められた。彼らが悔い改めなかったからである。21 「ああ、コラジン。ああ、ベツサイダ。おまえたちの間で行われた力あるわざが、ツロとシドンで行われていたら、彼らはとうの昔に粗布をまとい、灰をかぶって悔い改めていたことだろう。22 おまえたちに言う。さばきの日には、ツロとシドンのほうが、おまえたちよりもさばきに耐えやすいのだ。23 カペナウム、おまえが天に上げられることがあるだろうか。よみにまで落とされるのだ。おまえのうちで行われた力あるわざがソドムで行われていたら、ソドムは今日まで残っていたことだろう。24 おまえたちに言う。さばきの日には、ソドムの地のほうが、おまえよりもさばきに耐えやすいのだ。」これから分かることは、たくさん知識を得ているから救われているのではないのだということです。むしろ、少ない知識であっても、応答していることによって天の御国に近いということなのです。

私たちは、知識で自分たちを欺くことがあります。これだけのことを知っているから、私は救われている。あの人たちは、ほとんど、福音のことを聞いていないから、だから救いからは遠いだろうと思います。けれども、応答しているかどうかが問題なのです。天に行けば、まさかこの人が救われていたのか？という人が救われておらず、まさかこの人が救われたのかと驚くことが多いでしょう。イエス様が、そのことを多く語られました。ですから、ユダヤ人のように自分が自動的に救われているのだ、知識があるから救われているのだ、ということではないのです。

2C 真実な自由

そして、「**奴隷も自由人もなく**」と言っていますね。これはローマ社会で切実なことでしたが、教会に入れば、階級がなかったのです。これは驚くべきことで、もしかしたら主人と奴隷の関係の人たちが、教会に入ったら、奴隷のほうが牧者で、主人が彼から教えを受けるということもあったのではないかと思います。私はこの前、カルバリーチャペル沖縄で礼拝をしました。そこには、太平洋全体を統括する海兵隊の司令官とご家族がいました。礼拝後に挨拶しました。みことばをとて喜んで聞いて、少年のように、みことばを喜んでいました。とてつもない高い階級にいる人です。けれども、教会では同じ兄弟なんですね。

私たちは、奴隷といっても、本当の奴隷とは罪の奴隷であることを知っています。そして主人といっても、天に主がおられるのであり、自分は本当の意味では主人でないことを知っています。奴隷も、主にあつて自由人であり、主人も主にあつて奴隷なのです。福音は、必ずしもその階級を壊すことはしません。主が再臨されて、神の国が建てられる時に実現します。いや、その前でも主の憐れみによって、制度が変わることがあります。歴史の中で、奴隷制度を廃止していくのに先駆的な働きをしたのは、キリスト者たちでした。けれども、階級を壊す以上に、すでに霊的に、心の内面において、福音は主従関係を壊してくれたのです。

インドは、世界でも、教会が数多く生み出されている、リバイバルが起こっているところと言われ

ています。けれども、迫害も激しいです。なぜか？ヒンズー教による階級制度で、下層にいる人々が、教会においては、そうでなくなるからです。教育も受けさせてもらえない人々が教育を受ける恵みにあずかっています。それで、教会が一気に増えていきます。同時に、それはヒンズー教の階級制度を壊すことになります。なので、迫害があります。教会の中で、私たちは小さいと世では見なされている人々が大きな者とされ、また大きいと見なされていることが、小さいこととされていくように願います。

3C 神のかたち

そして、「**男と女もありません**」であります。ユダヤ教は、当時のギリシア・ローマ社会よりは、はるかに女性の地位は守られていました。神のかたちに、男と女が造られたと信じているからです。ギリシア人やローマ人の中には、女は人と動物の間ぐらいに考えていたかもしれません。だから、貴婦人であるとか、神を敬う人々が、ユダヤ教に救いを求めて行った姿が、使徒の働きに出てきます。しかし、そうしたユダヤ教でさえ、男尊女卑の体質はありました。女は、男より劣ったものとみなされていたのです。

しかし、キリストは、女性に対して敬意を払っていました。姦淫の現場で捕らえられた女にさえ、「**女の人よ**」(ヨハネ 8:10)と呼びかけて、敬意を払っていたのです。キリストにあって、女は男と一つになるというところまで引き上げられたのです。現に、ローマ時代、初代教会には女子供が多かったと言われています。女がキリストにあって、男と一つであるということが、教会で実践されていたからです。彼女たちが守られていたのです。

もちろん、創造の秩序は保たれています。夫婦の間では、男が女のかしらであり、男のかしらもキリストで、キリストのかしらも神であるということが、コリント第一に書いてあります。夫婦の間で、妻が夫に従い、夫は妻を愛します。こうした秩序の中でも、それぞれが与えられた務めを果たすことにおいては、だれもがキリストにあって同じであり、私たちは一つなのです。

いかがでしょうか？私たち、今の時代、まるで機械のネジのように、「大勢の中の一人」としてしかみなされない社会に生きています。しかし、一人ひとり信じる者が、キリストにあって神の子どもという、大きな恵みを受けています。その自覚をまず持ってください。その中で、いろいろな人が神の国には集められています。しかし、その人たちも恵みを受けて、神の子どもとなっているのです。ただ、キリストの血によって洗われて、自分たちはキリストのものとなっています。そこに、平和があります。豊かさがあります。王なるイエス様と同じ食卓について、私たちはその恵みを楽しんでいるのです。